

子々孫々^印 | 命と意思を繋ぐということ

時を超えた責任と、TAOISMの教え

『続日本紀』より

「又卿等子々孫々、各保栄命、相継共奉」

子々孫々とは、ただの長寿や繁栄を意味するものではありません。
子や孫、その先の代まで命と役割を守り、継ぎ続けていくこと。
TAOISMではこの言葉を、単なる血縁ではなく「繋ぐ意思」として捉えます。

単に血が繋がることではない。
意思が繋がることである。

一般的な解釈

- 血が繋がること
- 自動的に受け継がれるもの
- 過去からの結果

TAOISMの本質

- 意思が繋がること / 価値観・在り方が繋がること
- 正しいものを、正しく繋ぐ意図的な営み
- 未来への責任

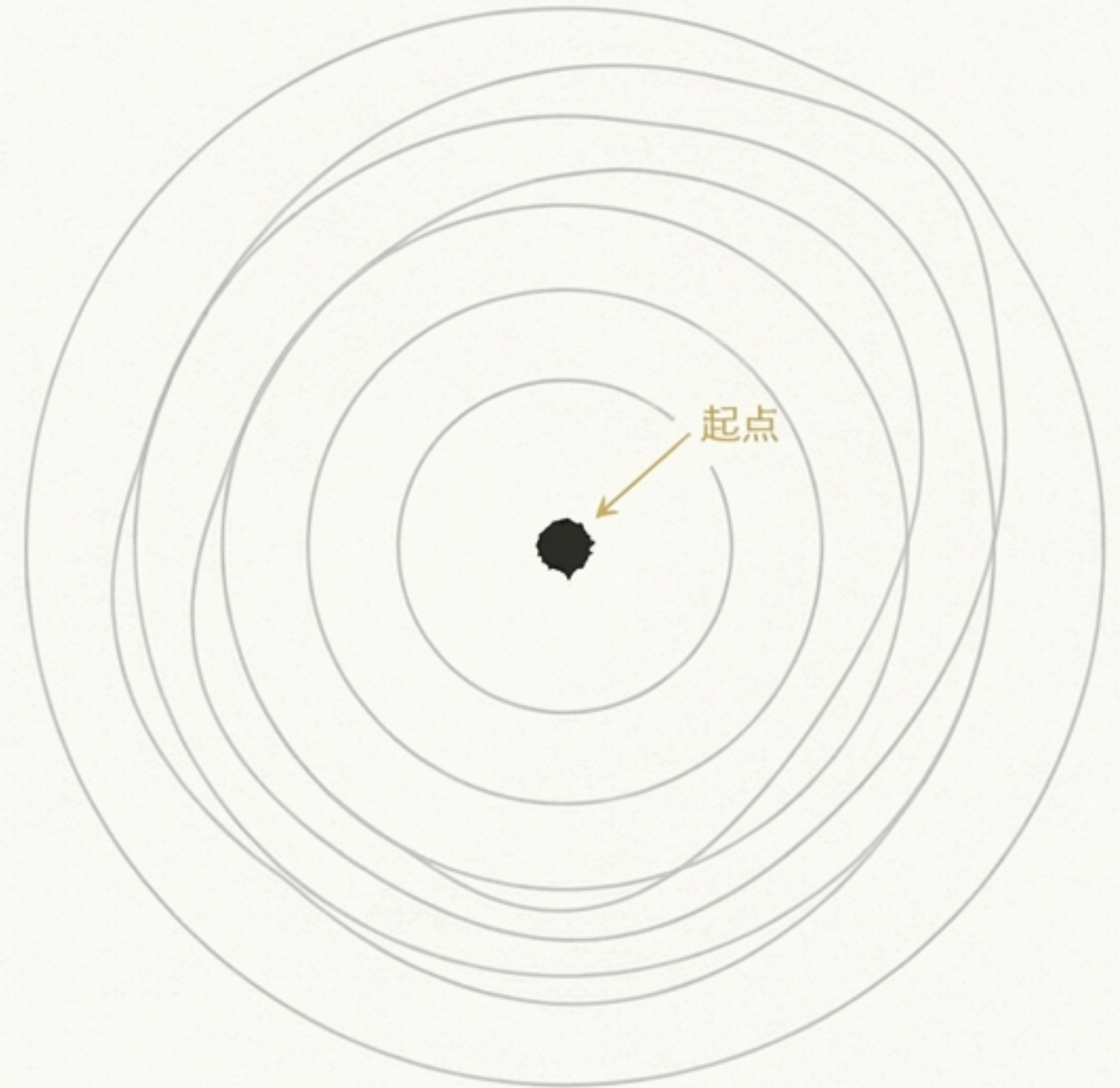
すべての起点は「自分が正しくあること」

正しいものを正しく繋ぐ。

しかし、どれだけ立派な言葉や仕組みを残しても、
起点である「自分」がズレていれば、
波紋のようにすべては外側に向かって大きく
歪んでいきます。

だからこそ第一歩は、自分自身を整えること。

- ・自分の姿勢
- ・自分の行動
- ・自分の判断



本質とは、時間を越えた責任



今だけではない。
自分だけでもない。

人は単体で存在しているのではなく、途切れない「流れ」の中に存在しています。
過去から受け取り、未来へ渡す連続の中に自分がいること。
これを理解することが、命と意思を繋ぐ起点となります。

感情では続かない。 放置すれば必ず崩れる。

価値観は風化する。

ルールは曖昧になる。

関係は歪む。

だからこそ「意図」と「繋ぐための設計 (仕組み)」が必要です。
構造がなければ、どれほど強い想いも継続しません。

相互保全という仕組み

監視ではない。支配でもない。全体を守るための調和です。

構造が正しく機能しているか、守られているかを見合うシステムが不可欠です。



TAOISMは「整える思想」

繋ぐための実践の三位一体



実践 1 | 己と仕組みの構築

【自分を整える】

- 言動を一致させる
- 判断の軸を持つ
- 日々の選択を磨く

【ルールを残す】

決して曖昧にしないこと。
感情を挟む余地のない構造を作ります。

- 運用のルール
- 保全のルール
- 分配のルール

実践2 | 関係性の修復と意識の転換

【関係性を整える】

- ・対話をする
- ・価値観を共有する
- ・ズレを修正する

【決定的な意識の転換】

自分はすべてを所有する終着点ではない。
自分は過去から「受け取る側」であり、同時に
未来へ「渡す側」という自覚を持つこと。



自分は繋がれてきた存在であることを、忘れていないだろうか。
人は慢心し、自分一人で成り立っていると錯覚する。

今の自分は、誰かの積み重ねの上にある。

その命を、
消費していないか。
浪費していないか。

子々孫々とは、今この瞬間の積み重ねである。

徳を磨き、責任を果たし、共同体と共に歩むこと。
それが時間を超えて続く道です。

では問う。

自分は次に何を残すのか。繋ぐ準備はできているのか。

あなたの今日の行動は、未来に繋がるものになっていますか。
それとも、その場限りで終わるものですか。